

第 I 部

公開シンポジウム

FD ネットワークの展開と 大学教育改革の方向性を問う

2010 年 9 月 7 日 (火)
京都大学 芝蘭会館
稲盛ホール・山内ホール

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

協賛：関西地区FD連絡協議会

FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う

日時 平成22年9月7日（火）13:00～

場所 京都大学 芝蘭会館

（大塚） 大変お待たせいたしました。ただ今より公開シンポジウム「FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」を始めさせていただきます。今年は、皆さん身をもって体験されていますように、歴史的な猛暑が続いております。今日は台風が近づいております、少しはましかなというところもありますけれども、まだまだ暑さがのこるなか、また、台風の動きも気になるなか、多くの方にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

天候ばかりでなく、われわれ大学人にとっては、仕分け等々で、厳しい世の中になっておまして、今後の大学教育がどう展開していくのかということも含めて、私どもが担当している FD のあり方について、皆さんとともにこの公開シンポジウムにおきまして議論を深めていければと思っております。

皆さんのお手元に配布されております資料のなかに、プログラムが記載されていると思いますが、ほぼそれに従って進行させていただきたいと思っております。

申し遅れましたが、私は本日の進行を務めさせていただきます京都大学高等教育研究開発推進センターの大塚と申します。どうぞよろしくお願いいたします（拍手）。ありがとうございます。

それでは、主催校を代表しまして、京都大学総長松本紘より、ご挨拶させていただきます。松本先生、よろしくお願いいたします。

開会挨拶

松本 紘（京都大学 総長）

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました京都大学の松本でございます。大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

先ほど大塚先生からお話がございましたように、本来ならば9月の初めですと、挨拶文の文頭は「秋涼の折」と言うのですが、39.9 度などという恐ろしい気温が記録されたばかりです。これも恐らく一過性ではなくて、これから年を追うごとにその傾向は強まっていくのではないかという覚悟をして、われわれもそろそろ真剣に考えてい



かないといけない時期に来ているのではないかと感じております。同様の厳しさが、やはり大学全体の教育研究にも押し寄せておりまして、一過性と思わずに、大学人が自らいろいろな努力をすることも必要な時期に達していると感じるべきではないかと感じております。

本日は、先ほどご紹介がありましたように、「FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」という非常に大きなスケールのタイトルの下で、熱心な方々にお集まりいただきまして、議論いただくと伺っております。大変頼もしいと感じております。

「FD」というと、ファカルティ・ディベロップメントというのはなかなか言いにくいですし、頭に入りにくいので、私は「ファン・トゥ・ドライブ」がいいのではないかと感じました。自動車メーカーの宣伝のように聞こえますが、何をドライブするかというと、教育者の気持ちをドライブする、学生に向けてドライブするという、いろいろな意味合いがあると思って、先ほど田中センター長に言いましたら、「そうだ」と言っていただいたので、そのように覚えていただいております。

今回は、本学の高等教育研究開発推進センターの中の一つの動きとして、全国の皆さまと相談しながら、このシンポジウムを企画していただきました。文部科学省から推進センターが「相互研修型 FD 共同利用拠点」として認められましたので、教育関係の共同利用拠点として今後活動していく上で、皆さま方のご意見を伺いながら、FD をどのように進めるか、教育をどう進めるかという方向性を見定めていく機会になると思っています。

京都大学は総合研究大学として、研究面では世界的にも一定の評価をいただいていると言ってもいいのではないかと感じておりますが、振り返って教育面を見ますと、世界的には教育、あるいは留学生、学生の獲得大競争が起こっておりまして、教育の質が大変問われる時代となりました。出口の質をどう保証するか、そのためには教育をどのようにするか、それをドライブする教員のトレーニングをどうするか等々の問題があり、教育面においても、京都大学はもとより日本の大学が世界に冠たる地位を築けるような共同体の一つの推進プログラムができたと感じております。

例えば京都大学では、これから薫陶を受けて高等教育に入ろう、従事しようという人たちを対象に、プレ FD のような仕掛けを推進センターを中心に行っております。そのシステムをどう作るかということも、一応手探りながらも大きな方向性を見据えて実施してきているところです。

また、プレ FD の対象となるような人たちだけではなく、既に教職に就いている教員が、本学の教育をどうするかということを実際に考えようということにも、京都大学なりに取り組んでおり、毎年 1 回、全学教育シンポジウムを開催しています。今週に今年度の分を開催する予定ですが、そういうシンポジウムでは、FD はもちろんのこと、教育の在り方、教養教育の在り方、専門教育の在り方等々につきまして、1 日もしくは 2 日缶詰状態で、多くの教職員が参加して、真剣な議論をすることにしております。

また今年度は、そういう取組みに加えまして、一昨日、新任教員のための教育セミナーをやったところでした。センターからは大成功だったと先ほど報告を受けました。

このような、われわれ京都大学の学内のいろいろな基盤整備、活動を通じて、京都大学の高等教育研究開発推進センターは、「関西地区 FD 連絡協議会」の代表幹事校の役割を担当させていただいています。この連絡協議会には関西地区の 130 校以上の参加をいただいていると伺っております。また、毎年 3 月には、「大学教育研究フォーラム」を主催・

開催しており、全国から 550 名を超える方々に参加いただいているという状況です。

さらに「FD ネットワーク代表者会議」が明日行われますが、全国にあるいろいろなネットワークを結びつけるネットワーク・オブ・ネットワークスという形で開催されるもので、17 のネットワークの関係者が参加されると伺っております。皆さまのおかげで、若手の方々も FD への関心が非常に高まってまいりまして、若手研究者のネットワークにも現在 70 名以上が参加しているとのことでした。

本日は、この会場に非常に多くの関係者にお集まりいただきました。中には関西地区 FD 連絡協議会、あるいは、17 ある FD ネットワークの代表者、若手 FD 研究者ネットワーク」の方々など、多方面からご参加をいただき、大変ありがたく思っております。ぜひ活発な議論をしていただきたいと思います。

京都大学は、先ほど申し上げましたように、教育関係の共同利用拠点として認可をいただいたわけですので、その責務を果たさなければならないと強く自覚しているところです。そういう意味で、FD という地道でありながら大変重要な活動に、皆さまと一緒に、われわれも力の限り貢献してまいりたいと思っておりますので、どうぞ皆さま方、京都大学のこのセンターを中心に活動するみんなを、叱咤激励していただきたいと望むところです。

プログラムが皆さまのお手元にあるかと思いますが、本日のシンポジウムでは共同利用拠点の在り方そのものも含め、さまざまな観点から幅広いご議論をいただく企画だと伺っております。この暑い最中に各方面から多くの方々に講師としてご参加をいただきました。ご紹介申し上げますと、新潟大学からは絹川正吉先生、立教大学からは寺崎昌男先生、東京大学からは名誉教授の天野郁夫先生、桜美林大学からは館昭先生、そして東北大学からは羽田貴史先生にお話をいただきます。そして、MEXT for the NEXT、次の時代を支える MEXT（文部科学省）ということで、大変お忙しい中、大臣官房審議官の小松親次郎様にもわざわざお越しいただきました。先生方ならびに小松様には御礼を申し上げたいと思います。

大学行政、大学の財政、あるいは大学の教育研究を取り巻く環境が厳しくなると、先ほど司会の方からもお話がありましたが、その中で、わが国の世界の中での在り方を語るときに、高等教育がどうあるべきかということを経験には語れません。先ほど小松審議官ともお話をさせていただきましたが、産官学を合わせて、そして高等学校も加えて、この国をどこに導くのか、教育はどうあるべきかということを実際に議論すべき時期が来ているのです。

諸外国に行きましても、日本の置かれている状況の悪さを非常に強く認識して帰ってきます。日本人が内向きになっているとか、背中が丸いとか、いろいろと言われますが、これはひとえに教育にかかっていると思います。今日言って明日改善されるものでは決してございません。従いまして、高等教育そのものの在り方、そしてその進め方を大いに研究していただき、FD を含めて、皆さまで大所高所からご議論を深めていただきたいと思います。

本日は熱心な方々にこれだけお集まりいただきました。ぜひ素晴らしい成果が出ることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました（拍手）。